第 2014-03 号

恵みと真理のニュース

2014 年 1 月の三次　恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

苦難と逆境の中で

神様を完全に信頼し捧げるようになりました

私はイエス様を信じない家庭で生まれ子供の頃を田舎で過ごして育ちました。
一時期隣の村にある教会に通いましたが、信仰がなくてただ友達について通うくらいでした。学校を終わってからスワンにある職場生活をするうちに１９９７年に結婚をして旦那とちいさい事業を運営しながら忙しい生活を過ごしました。旦那の事業の取引の社長に伝道され恵みと真理教会のアンヤン聖殿に行ってイエス様を受け入れ信仰生活を始めました。私も他の首区域長について教会に通いました。しかし私の夫婦は信仰の根を深く下ろさないまま事業が忙しいという言い訳をして礼拝を捧げなくなりその後から教会を通わなくなりました。始めは事業の商売が良くなりましたが近くに大手のスーパーが次々立ってられ私達の商売ができなくなりついに借金までしなければならなかったです。当時には二人の息子を養育するため経済的に大変でとうとう借金業者から脅迫まで受けるようになってその辛さは言葉では表現できないくらいでした。その時から気を取り戻して切に神様を求め真に神様を仰ぎました。涙で祈る私に神様は“　恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。”（イザヤ４１：１０）御言葉を与えてくださいました。
その間神様は私を忘れないで神様の父の懐に入るようにお待ちしてくださった事を悟りその御言葉を信じ一人で泣きながら祈って隣に住む勧士について再び教会に通い始めました。
礼拝を捧げる間悔い改めの涙を流しました。神様を離れ生きて来たことがおろかな事でその間神様を悲しませたことを自責しました。その後から二人の息子を連れて教会の全ての礼拝に参加して熱心に牧師の説教を聴き祈り賛美しました。講壇で牧師がただ私だけ見るように感じられて説教もただ私の一人のためくださる説教のように多くの恵みを受けました。初めてどんな状況でも動かない信仰を持つようになりました。
経済的に苦しい状況である私の家庭に旦那の妹が“私も職場に通いながら家計に足しになる”条件でイルサンの家を捜してくれて引越しをしました。
引越ししてから間もなく神様は私の夫婦にきれいな娘をプレゼントで与えてくださいました。礼拝中心の生活をして休まずに祈り仕える生活に力を入れると神様は私が職場に通わなく礼拝と奉仕に専念するように祝福を与えてくださいました。区域長の職分と教会学校の教師の職分をくださりひたすら主のことをしながら主だけささげるように恵みを与えてくださいました。
足りなくて弱い私を　忠実で良いと思わせてくださり尊い職分を与えてくださることを感謝しながら“わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。”パウロの告白が私の体験の告白であり証になる事を願い神様だけを委ね最善を尽くして担えるように努力します。神様がくださった３人の子供を連れて熱心に教会の生活をしながらまだ教会に通わない旦那のためにも切に祈りました。
そうするうちに２０１２年４月２０日金曜日でした。その日も同じく娘を連れて金曜日の礼拝を参席した後寝ている娘を起こして家に帰るため旦那に迎えに来るように電話をしてバスに乗りました。バスのなかで長男が交通事故にあったと連絡を受けました。私は瞬間肝を冷やしましたが一方で息子の意識があったから車の運転者に私の電話番号を教えたと思って一安心しました。聞いてみたら長男が旦那の代わりに私達を向かいに行くうちに信号を見て道を渡りながら事故にあったそうです。おそれる心で現場に到着したら 119 の救急車の中で応急治療を受けていました。外傷では腕が骨折していたようで、顔が腫れてあざができていました。近くの病院で検査をしてみたら考えてことより酷かったです。顔の骨がたくさん 壊れ、顎にもひびが入っており、腕が骨折になったが、さらに成長板が損傷して視力にも異常があるという検査結果が出てきました。急いで子供をソウルの大きい病院で移りただ神様の助けだけを求め祈りました。以後手術ができ、息子の治療の全ての過程が神様が共にしてくださり助けで摂理してくださることを深く感じました。
子供が怪我をしたことも心配ですが礼拝から帰って来るときに事故が起こった事だから旦那が信仰からもっと離れたのではないか心配しました。しかし、旦那は息子の事故が自分が教会に行かなかったから起こったと言いながら私を慰めながら神様に悔い改めました。そして手術後から教会で教役者と多くの聖徒のお見舞いに来てくださり祈ってくださって旦那の閉じていた旦那の心は開かれ真に主を受け入れ変化を受けました。息子の思いかけなかった事故を通して神様のところに帰って来た旦那は以前よりもっと熱心に信仰生活をしながら男性奉仕連合会で奉仕しています。神様の恵みで息子は早く回復され退院して今は学校によく通っています。“イエス様が私の命を守ってくださいました”と言いながら以前よりもっと堅い信仰を持って神様を信頼し愛し神様の尊い子供として育っています。ハレルヤ！
しきりに神様を離れて生きようとした私を神様の懐に戻って来るようにしてくださり悲しみが喜びになり苦難が栄光になるようにしてくださった神様の恵みを賛美します。神様がくださった全ての恵みに感謝を捧げ、ただ神様に栄光になり主を喜ばせるようにします。キリストが尊くなるように私の家庭の今年いつも感謝する事を願います。

［信仰コラム］

神様としては全部されことができる

イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはできないが、神にはできる。神はなんでもできるからである」。（マルコによる福音書10:27）

″人ではできないが、神(かみ)様(さま)にはそうじゃないから神(かみ)様(さま)としては全部(ぜんぶ)されことができる。″この言葉(ことば)はイエスさまが言(い)った言葉(ことば)です。神(かみ)様(さま)の存在(そんざい)を信(しん)じている人(ひと)ならこの言葉(ことば)を当(あ)たり前(まえ)の事実(じじつ)として受(う)け入(い)れるが、当然(とうぜん)の事実(じじつ)はむしろ無(む)感動(かんどう)しにしやすいかと思(おも)います。しかし、この言葉(ことば)は実(じつ)に驚(おどろ)くべき恩(おん)の言葉(ことば)です。この言葉(ことば)の意味(いみ)を深(ふか)く知(し)ることになると言葉(ことば)に尽(つ)くせない慰労(いろう)と希望(きぼう)と平安(へいあん)を持(も)つようになります。
第(だい)一(いち)、人(ひと)の努力(どりょく)と方法(ほうほう)では罪(つみ)と滅亡(めつぼう)から免(まぬか)れることはできないが、神(かみ)様(さま)は罪人(ざいにん)を救援(きゅうえん)することができるという意味(いみ)があります。
救(すく)いは神(かみ)様(さま)だけができることです。神(かみ)様(さま)が彼(かれ)の御子(みこ)を世(よ)に送(おく)ってくださって私(わたし)たちの罪(つみ)と過(あやま)ちを贖罪(しょくざい)するようにおっしゃるので、これを信(しん)じる者(もの)が、救援(きゅうえん)を得(え)るようにしました。義理(ぎり)になって、永生(えいせい)を得(え)て天国(てんごく)に入(はい)ることになる救援(きゅうえん)のために人間(にんげん)は何(なに)もできません. ただイエス・キリストを救世(きゅうせい)主(しゅ)と信(しん)じて迎(むかへ)接(せっ)することで十分(じゅうぶん)です。福音(ふくいん)を伝播(でんぱ)することは聖(せい)徒(と)たちがすべきことです。しかし、驕慢(きょうまん)で愚(おろ)かな人生(じんせい)を下(さ)げて壊(こわ)して悔悟(かいご)することにするのは神(かみ)様(さま)だけができることです。ですので、私(わたくし)たちの考(かんが)えに到底(とうてい)、イエス様(さま)を信(しん)じないものと見(み)える人(ひと)にでも最善(さいぜん)を尽(つ)くして福音(ふくいん)を伝(つた)えなければなりません。
第(だい)二(に)に、″人ではできないが、神(かみ)様(さま)にはそうじゃないから神(かみ)様(さま)としては全部(ぜんぶ)されことができる。″はお言葉(ことば)には自分(じぶん)の知恵(ちえ)と力(ちから)で解決(かいけつ)できない問題(もんだい)を神(かみ)様(さま)は全部(ぜんぶ)解決(かいけつ)することができるという意味(いみ)があります。
この言葉(ことば)は辛(つら)い世(よ)の中(なか)を生(い)きる私(わたし)たちに問題(もんだい)を積極(せっきょく)的(てき)に対処(たいしょ)していけるようにしてくれます。私(わたし)たちは自分(じぶん)の無能(むのう)と無力(むりょく)さにあまりにも集中(しゅうちゅう)して執着(しゅうちゃく)するほかの全能(ぜんのう)の神(かみ)様(さま)を忘却(ぼうきゃく)しやすいです。考(かんが)えを変(か)えなければなりません。自分(じぶん)の武力(ぶりょく)や無能(むのう)がかえって神(かみ)の全能(ぜんのう)清福(せいふく)を味(あじ)わうことが機会(きかい)と思(おも)わなければなりません。この言葉(ことば)を″神(かみ)様(さま)が全部(ぜんぶ)言(い)った。″は意味(いみ)に誤解(ごかい)してはなりません。人生(じんせい)の道(みち)に直面(ちょくめん)するさまざまな問題(もんだい)を解決(かいけつ)するために私(わたし)たちがしなければならない事(こと)があります。まず、イエス・キリストの名前(なまえ)に父親(ちちおや)の神(かみ)様(さま)に祈念(きねん)しなければなりません。また、信頼(しんらい)を持(も)って主(しゅ)に助(たす)けを求(もと)めなければなりません。神(かみ)様(さま)の権能(けんのう)に対(たい)する信頼(しんらい)を持(も)って、懇(こん)救(救)しなければなりません。また私(わたし)たちがやるべきことの１つは主(しゅ)の指示(しじ)通(どお)りに従順(じゅうじゅん)にすることです。人(ひと)ができなくても神(かみ)様(さま)は全部(ぜんぶ)できるということを信(しん)じてお話(はなし)に随順(ずいじゅん)しなければなりません。
第(だい)三(さん)に、″人ではできないが、神(かみ)様(さま)にはそうじゃないから神(かみ)様(さま)としては全部(ぜんぶ)されことができる。″はお言葉(ことば)には神(かみ)様(さま)がすべてのことが合力(ごうりき)して線(せん)を実現(じつげん)するようにすることができるという意味(いみ)があります。
この言葉(ことば)は私(わたし)たちが世(よ)の中(なか)でどのようなことがあっても落胆(らくたん)したり挫折(ざせつ)しないようにする希望(きぼう)を持(も)たせてくれます。私(わたし)たちは一生(いっしょう)神(かみ)様(さま)の助(たす)けることを着(き)て問題(もんだい)解決(かいけつ)を受(う)けられる体験(たいけん)を数(かぞ)え切(き)れないほどしながら暮(く)らしています。しかし、一方(いっぽう)では韓国(かんこく)が求(もと)めるとおり回答(かいとう)されない経験(けいけん)もたくさんするようになります。たとえ神(かみ)様(さま)を恨(うら)んでないまでも名残惜(なごりお)しい気(き)がする事(こと)があります。私(わたし)たちの一生(いっしょう)は天国(てんごく)での永遠(えいえん)な生(なま)に比(くら)べると実(じつ)にしばらくちょっとです。私(わたし)たちがたとえ解決(かいけつ)されない苦難(くなん)を経験(けいけん)して理解(りかい)が及(およ)ばない困難(こんなん)を経験(けいけん)するしても相(あい)変(か)わらず神(かみ)様(さま)を愛(あい)しながら過(す)ごしたら必(かなら)ず患難(かんなん)が福(ふく)がなって苦難(くなん)が栄光(えいこう)になることを見(み)るようになります。
皆(みんな)さんは魂(たましい)の救(すく)いとともに、皆(みんな)様(さま)の人生(じんせい)に迫(せま)る問題(もんだい)の解決(かいけつ)と、すべてを合力(ごうりき)して線(せん)を成(な)している事(こと)を体験(たいけん)してください。それで、″人ではできないが、神(かみ)様(さま)としては全部(ぜんぶ)できるというイエス様(さま)の言葉(ことば)が私(わたし)にくださったお言葉(ことば)です。″という告白(こくはく)とともに感謝(かんしゃ)する心(こころ)が常(つね)に充満(じゅうまん)して下(くだ)さい。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

捨てなければならない根性と
持たなければならない根性

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

根性は根深くめりこんだ性質を意味します．根性という言葉は肯定的に使われたり否定的に使われたりします．プロ根性だと言えば肯定的な意味を持つが奴隷根性，乞食根性と言えば否定的な意味を持ちます．根性は生まれつきの性質から始めるが模範として学んで努力するので生成されたりします．自分の性格の中で否定的な根性があれば根を絶つようにして，良い根性があれば深く根付くようにしなければなりません．今日は出エジプトしたイスラエル子孫たちと彼らと一緒にした多くの雑族たちの根性に対してそして引き継いでガレブの根性に対してよく見ます．そして私たちが捨てなければならない根性が何で持たなければならない根性が何やら判断して念頭に留めおくようにします．

第一、私たちが必ず捨てなければならない根性に対してよく見ます．

イスラエル子孫たちがエジプトで持って出た糧が底が見えました．広野では彼らが食べ物を得る方途がなかったが神様がモセの祈祷に回答なさって日用する糧食をくださいました．夜に天から “マンナ”が下ってイスラエルの陳の四方に積もりました．人に “マンナ”と呼んだが白カッシみたいだったし味は蜂蜜交ぜたお菓子みたいでした．そのまま食べることもできたしそれをおさめて石臼にひくとかお御輿にゆでて食べたりしました．“マンナ”と言う完全食品で必要な栄養素がめいめいにすべて入っていたからそれだけ食べても老若男女皆元気に広野を行進することができました．貿易をするとか農業をすることができない状況で毎日天から日用する糧食が下ったら嬉しくて感謝すること言い尽くせない事です．ところでいつからか“マンナ”と言う不満と不平になってしまいました．イスラエル子孫たちが不満と不平の話をするように刺激を与えた原因提供者がいました．イスラエルの中にまじて暮す群れが貪欲を抱いたらイスラエル子孫も泣いてそのような行動をしました．
出エジプト記 12 章 38 節にまじて暮す群れを“衆多した雑族”と称えています．彼らは神様に対して信仰がなかったです．信仰があると言っても神様を仕えるのが生の目的ではなかったです．雑族たちは神様のみ旨が分かろうとしないで自分たちの欲求充足のみを思いました．そうしてみると自分たちが望みどおりにならなければ神様を向けて恨みながら不平を言いました．これが雑族根性です．雑族たちは食べ物に対する貪欲を持ってマンナを見ました．そうすると“マンナ”と言う彼らに感謝ではなく不満でした．そしてでたらめに不平を言いました．これが雑族根性です．こんな雑族根性がイスラエル子孫たちに伝染しました．そしてイスラエル子孫たちが泣きながら不平を言いました．

このような態度に対して神様が怒ってその日から 38 年を広野で迷うようにしました．そしてエジプトから出る当時 20 歳以上になった人々はヨシュアとガレブを除き皆広野で死にました．病み付きになった雑族根性のためでした．

第二、私たちが必ず持たなければならない根性に対してよく見ます．

聖書に見れば双壁を成す偉人たちがいるのにその中にヨシュアとガレブがあります．ガレブは悪い根性を排撃して良い根性を培養する事に模範を見せました．イスラエル子孫たちは 40 年広野生活を経っていよいよガナアン進入を控えるようになりました．神様がモセにイスラエルが占めるようになるガナアン地の四方境界を知らせてくださいました．そしてガナアン地を分配する任務を遂行する各支派の代表者を任命しました．各支派のリーダー名簿を見ればガレブという名前があります．ガレブは元々イスラエル人ではなくて “グナス族属に属した人”でした．出エジプト当時に多くの雑多な種族がイスラエル子孫たちと一緒に出ました．彼らは大多数イスラエル民で帰化したようです．ガレブはそんな雑族出身としてユダ支派に吸収されました．このようなガレブがガナアン地を分配する事にユダ支派の代表者に指名されたということは驚くべきで珍しい事です．彼がユダ支派人々から信望を得てまた神様の認定を受けた人になったところにはそんな理由があります．
ガレブは雑族出身だがイスラエル民で帰化した以後には彼の考え方が変わりました．事物を見て判断する方式が変わりました．一口で言って彼の根性が変わりました．ガレブはないものより神様が下さったものなどを思いました．神様がこれから 下さるものなどまで思いました．神様を嬉しくすることが何かを思いました．神様の口約束を通じて判断しました．このような態度がガレブの根性になりました．ガレブはガナアン地を探る１２人の偵探の者の中に一人で選発されて 40 日間ガナアン地を探って帰って来たことがあります．その頃十人の偵探の者とガレブは現実状況に対する見解が同じでした．“① その地居民は強い．② 城邑は甚だしく大きくて堅固だ．③ 身の丈が壮大だ．” ところで信仰的側面での見解はお互いに違いました．十人の偵探の者は “① 私たちは自ら見るのにイナゴみたいだ．② 彼らの見るにもそうだったろう．③ 私たちは上がってその民を打つことができない．” と言いました．しかしガレブは主張するのを “① 私たちがすぐ上がろう．② その地を占めよう．③ 必ず征腹するでしょう．” と言いました．民たちは十偵探の者の不信仰的報告を聞いて一斉に声高めて泣き始めました．民たちの悲嘆の泣き叫ぶことが徐徐に高まりました．
正しい信仰を持った人はしなければならないこととしてはいけないことを正しく分別します．ヨシュアとガレブは民たちにしなければならないこととしてはいけないことを区分して言いました．彼らは “エホバを嬉しくしなさい．”と告げました．そして “エホバを逆らわないで その地の民を恐れないで．” と告げました．十人の偵探の者が神様の約束を無視してガナアン族属たちを過大評価して相対的劣等感を持って “私たちはイナゴみたいだ．”と言った時ガレブは “敵方は私たちのご飯だ．神様が私たちをその地で導いてくださってその地を私たちにくださる．” と叫びました．ここにガレブの信仰的根性が現われています．ガレブはこの城邑や壮大な敵方によっていじけなかったです．多数の偵探の者にひるまなかったです．ガレブは神様だけ頼りました．神様の口約束に照らしてすべてのものを判断して結論を導出しました．これがガレブの根性です．
ガレブはガナアン征服戦争の時もいつも先頭に出て勝利の原動力になりました．甚だしくは 85 歳の年にもかかわらずガナアン族属の中で一番気骨が壮大なアナク子孫がいるヘブロン山地を引き受けて彼らを征腹する戦争をしました．ガレブはヘブロンを自分に与えて所有にするようにしてくれと言ってヨシュアに請願しました．その請願の根拠は 45 年前ガナアン地を探った事件に根拠します．十人の偵探の者は否定的な報告をして民の肝胆をとけるようにしました．その時ガレブは神様の旨に完全に従いました．ガレブは多数の意見より神様の口約束に付きました．現実を神様の口約束に照らして把握して判断しました．民たちを正しい決断に至るようにしようとつくしました．その日にモセがガレブに誓って言うのを “あなたが私の神様エホバを完全に従ったからあなたの足で踏む地は永久にあなたとあなたの子孫の嗣業になろう．” しました．このような誓いの言葉に根拠してヨシュアにヘブロン山地をくださるといいました．ガレブは神様がお許し願えた嗣業をおろそかに思わないですべて捜して享受するのが正しいという考えを持ちました．そして自分の権利を主張しようとするより自分の責任を果たそうとする犠牲精神を持ちました．これがガレブの根性です．
ガレブは危険をおかして当時ヘブルンに住んでいる巨人族アナク人とその堅固な城邑を征腹してモセを通じてくださった神様の約束をすべて成そうとしました．これがガレブの信仰的根性でした．ヨシュアはガレブが神様の約束に根拠して充分にアナク族属を追い出すことができると確信してヘブロンをガレブの嗣業で与えました．果してガレブはヘブロンを占領しました．神様がガレブがたとえ グナス族属出身だったが彼から雑族の根性を捜してみることができないし ただ信仰と献身と忠誠をつくす信仰的根性があることを見てユダ支派の代表になるようにしたし，ヨシュアといっしょにイスラエルのリーダーがなるようにしました．

あるものよりもないものを推し量りながら神様に不平を言うことは雑族根性です．神様が施した恵みのごく重さを忘却して世の中をあこがれることは雑族根性です．キリストの外にある時に帰ろうと思うことは奴隷根性です．神様を依頼して口約束をつかんで信仰で思って信仰で言うのがガレブが見せてくれた信仰的根性です．聖徒の皆さんは雑族の根性は徹底的に根を絶って，信仰的根性は深く根付くように願いします．